



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



UNESCO
Associated
Schools

平成28年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成28年4月～平成29年3月

1. 学校概要

学校名 見附市立見附小学校

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒954-0052
新潟県見附市学校町1-3-89

E-mail misho@mitsuke-ngt.ed.jp

Website http://www.mitsuke-ngt.ed.jp/~misho/

児童生徒数 男子 293 名 女子 268 名 合計 561 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について

見附小学校では、ユネスコスクールに認定された平成22年度より総合的な学習の時間や生活科に「花育」を位置付け、「人や自然との関わり」「生命あるものへの優しい気持ち」を大切に学習活動を進めている。平成28年度は、

「前庭及び花樽プランターを活用した『見小っ子ガーデン・マイフラワープロジェクト』」

を柱として、「花育」を成功させるために、「全校花育て集会」の取組と「花育ての日」の取組の二つを新たに取り入れて、一層の意欲の高まりを図った。

- ① 全校花育て集会…4月に開催し、花育の趣意を話し、昨年度の花育活動を紹介することで、今年度の活動の見通しと「命ある草花を大切に育てよう」という意欲をもたせることができた。
- ② 花育ての日…4月から11月まで、月1回清掃時間の15分を使って全校一斉に花の世話をを行った。草花の観察、草取り、水やり、肥料をやることなど意欲的に取り組むことができた。

こうした新たな取組のうえに、総合的な学習の時間や生活科に花育を位置付け、E S D の考え方を取り入れた「花育指導計画」を作成し、年間を見通した活動を進めた。

「栽培活動で、自らを取り巻く人々との協働作業を通して社会性を育むこと」「草花や野菜等の命ある植物の生長を『体験』『体感』させ、それを生かし、楽しむ活動を工夫すること」をねらいとし、それぞれの学年が以下のように活動した。

どの学年も、「自分の花（野菜）」を意識し、根元にネームプレートを置いて、子どもたちが自分の花に愛着をもって世話をする姿をねらった。水やりには、雨水を利用し、地球環境にも優しい活動を行うことができた。

◆1年…生活科「大きくなってねアサガオさん」(個人プランターでアサガオ栽培)

子どもたちが、年間通してアサガオに触れる中で、アサガオの特徴や変化に気付いたり、自然物への愛情・愛着をはぐくんだりする姿を目指した。

教室のそばの中庭で、子ども一人一人が自分のプランターを用意し、栽培活動を行った。子どもたちにとって、アサガオは身近な花であるとともに、小学校入学前の体験入学時に当時の1年生から種をプレゼントしてもらった特別な花でもある。毎日水やりをし、小さな変化にも目を向けながら生長の過程を追い続けた子どもたち。芽が出たとき、花が咲いたとき、種ができたとき、ツルを使ってリースを作ったときの喜びはとても大きいものであった。

子どもたちは、「来年の1年生にも種をプレゼントしたい」という思いをもち、今年度も体験入学にやってきた年長児に種をプレゼントした。アサガオの栽培を通して、身の回りの植物に愛情・愛着を抱く姿は、しっかりと次の1年生にも受け継がれている。



◆2年…「かがやきファーム」で野菜作り

一人一人が植えたい夏野菜を家の人と相談して考え、苗を市（いち）に買いに行き、畑に植えた。「お家の人に食べさせたい。」「早く収穫したい。」という思いを高め、ボランティアの野水さんにも世話の仕方を教えていただきながら、支柱に結んだり、害虫駆除をしたり、初めての作業でも、全力で取り組んだ。夏には、次々と収穫される野菜に驚きと喜びを感じていた。

秋からは、大根の種を畑に蒔き育てた。追肥や間引き、草取り等の世話をした。途中蛾の幼虫が大量発生し、蒔き直さなければいけない畑もあったが、なんとか収穫できた。収穫した大根を使っておでんや、大根の葉の漬け物、皮のきんぴらを作り、みんなで食べた。野菜嫌いの子も、進んでおかわりをするなど喜んで食べていた。



◆3年…前庭花壇に大輪ヒマワリを咲かせよう ヒマワリロード

3年生は、学校の顔とも言える前庭花壇に一人一本ヒマワリを植えた。毎朝、登校すると、すぐに自分のヒマワリに水やりをし、生長を観察した。

夏季休業中にも、輪番で世話を続けた。夏休み後半には、高いものでは3mを越す立派な大輪のヒマワリを咲かせることができた。

秋には、パンジーを植えた。秋の文化祭シーズンには、学校を訪れる人々の目を美しい花々が楽しませた。また、卒業式に飾るためにサクラソウ栽培を行った。卒業生への感謝を込めて、係児童を中心に水やり・追肥した。



◆4年…前庭花壇を鮮やかに飾ろう

4年生は前庭の花壇を色とりどりに飾るため、自分の育てたい花を選び、花壇とプランターに植えた。一人一人植えた花に名札を付け、一生懸命世話した。登校すると、花の様子を見に行き、「私のベゴニア、すっごく大きくなったよ。」と生長を楽しみにし、熱心に水やりをした。花育ての日を中心に草取りをしたり、追肥したりした。夏休みは当番を決め、水やりを連日行った。秋には、ビオラを植えた。春に花が咲き、花壇を飾るのを楽しみにしている。



◆5年…前庭花壇を色とりどりに！咲かせよう 一人一人のスマイルフラワー

5年生は、マリーゴールド、パンジー、ペチュニアを育てた。一人一株を植え、水やりを毎日行い、花育ての日には草取りに黙々と取り組んだ。それぞれの花を育てることを通して、マルチの穴を大きく開けすぎれば雑草が生え、逆に穴が小さければ水が土にしみこみにくく、根が張りにくいことを学んだ子どもたちは、マルチの穴の開け方や、移植するための土の掘り方などを自分で工夫することができるようになった。夏休み中には、自分の当番以外の日でも水やりをする子が多く、毎日学校に通って水やりをする子もいた。生命を大切にする心や、与えられた役割以上のことを果たそうとする責任感が育った。この花育てによって学んだことは、6年生としての態度に大きく影響してくるであろう。



◆6年…伝統の見小花樽プランター

6年生は、昨年度同様玄関の花樽プランターを担当した。ウイスキー樽のプランターである。

花樽一つにつき、五人程度のグループで栽培を担当した。まず行ったのは、栽培計画で、花の種類や色、数のバランス、配置などを話合って決めた。植えた後は、きれいな花樽になるよう、毎日の水やりや花育ての日の草取りなどに一生懸命取り組む様子が見られ、自分たちの花樽への愛着を深めていった。子どもたちの、きれいな花が咲き続けるために、大切に育てようという心を育てることができた。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

)